

海洋問題に繋がるごみのポイ捨てを減らす工夫

要旨

海洋問題に繋がるつながるポイ捨てを収集していくと、学校周辺と通学駅周辺にゴミは多く、ゴミ箱を設置したところポイ捨ての減少に努める事ができた。そこで、各々1週間を目処にゴミ箱はどのようにすれば良いか調べると「中身が見えるゴミ箱で、予め中身にゴミを入れてあるゴミ箱」が良いという結果が得られた。

1. 研究の動機と目的

海洋問題によるウミガメの授業を受けたとき、ごみの多さが目立った。では、そのごみはどこから来たのだらうと考えて調べていくとポイ捨てが海に運ばれていくことを知った。そこで私たちは地域のごみを減らすことを目的として活動していった。

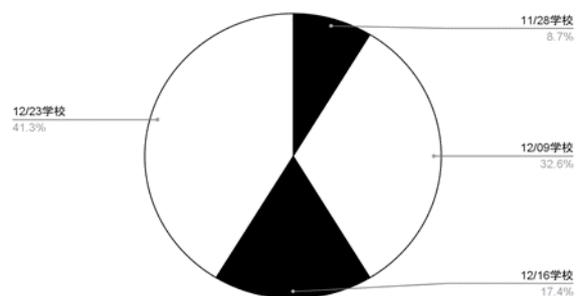
2. 探求方法

実際に地域を歩いてどのようなゴミが落ちているのか詳しく調べる。調査結果に基づき、駅周辺と学校周辺にゴミ箱を11/21～12/20の約1ヶ月間設置。約1週間おきにゴミ箱の中身を確認。また、その都度周辺のポイ捨ての状況を確認していく。(1)11/28外から中身が見える(2)12/19外から中身が見えないようにする(3)12/16ゴミ箱に鏡を貼り付ける(4)12/23予め中身にゴミを入れておく。

3. 結果

はじめに、発見した8割がコンビニの購入時のゴミ。よくゴミが捨てられていた場所は駅周辺と学校周辺だった。次にゴミ箱を設置した結果、その前後で明らかにゴミのポイ捨てが減った。よって、私たちの地域ではゴミ箱の設置によってポイ捨てを減少させ、海洋問題に少し役立つことが立証できた。施した工夫で(1)(3)は効率が悪かった。(4)が最も効率よくゴミが捨てられた。ゴミ箱の設置に関して便利だったという声を得られた。

1ヶ月で集まったゴミを100%とした各工夫の量の割合

**4. 考察**

まず(2)(4)がなぜ効率よく集められたのか考えていく。これはゴミの入れはじめが肝心だと考えた。中身が見える方式は、はじめは全くゴミが入っておらずしっかりと集まるか不安だった。けど、一回ゴミが入れられると、そこからの速度が早くなっていくことを感じた。なので、今回の効率よく集められるゴミ箱結果からはゴミ箱の外側の工夫ではなく、中身の工夫がゴミの捨てられやすさに関係していた。(3)のように無駄に外観に工夫を凝らすと周りの景色と同化し、捨てられにくくなった。これは、上手にゴミ箱の場所を知らせることができたら、もっと収集効率が上がるんじゃないかと考えた。

5. 結論

今回の「中身が見えるゴミ箱で、予め中身にゴミを入れてあるゴミ箱」が良いという結果は私たちのような似た地域がゴミ箱を設置する際に参考にできる。ただ、設置の際の資料やゴミ箱の費用などは、各団体の費用になってくる。しかし、効率良く集められるゴミ箱を元に、無駄を省き、費用を最小限にとどめることができると考える。